

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
R.ワーグナー

タンホイザー

Tannhäuser

2023年1月28日(土)~2月11日(土・祝)

会場:新国立劇場オペラパレス 2022年11月26日(土)前売開始



2019年公演より

騎士タンホイザーの苦悩と救済を描く、ワーグナーの壮麗なスペクタクル

中世のタンホイザー伝説をもとに、愛の苦悩を大スケールで描いた、ワーグナー中期の人気作『タンホイザー』。有名な序曲や巡礼の合唱、壮麗な大行進曲、歌合戦など、オペラならではのスペクタクルが満載の祝祭的作品で、ワーグナー入門にもお勧めです。

ファン待望の新国立劇場のワーグナー、そして世界最高峰のヘルデンテノール、グールド登場！

タイトルロールには世界最高峰のヘルデンテノールで日本でも圧倒的人気のステファン・グールドが得意役タンホイザーで新国立劇場へカムバック。ツヴィラク、シドラウスカイトら実力派の来日と共に、新国立劇場でもお馴染みの日本のトップ歌手たちの競演も楽しみです。フランダース歌劇場音楽監督にして日本のオーケストラへの客演も多く、生命感に満ちた音楽創りに定評ある指揮者アレホ・ペレスが新国立劇場のオーケストラピットに入るのも話題です。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

愛の苦悩を描くワーグナーの壮麗なスペクタクル『タンホイザー』

中世のタンホイザー伝説とヴァルトブルクの歌合戦伝説に題材を取り、官能の愛と精神的な愛の間で揺れる騎士タンホイザーの苦闘と救済を描く、ワーグナー中期の人気作。単独で演奏されることも多い有名な序曲、官能的なバレエ、敬虔な調べを奏でる巡礼の合唱、雄大壮麗な大行進曲、高らかな歌合戦の場など、オペラならではのスペクタクルの詰まった祝祭的作品で、ワーグナーの中でも広く人気を獲得している作品です。エリーザベトの「歌の殿堂」、ヴォルフラムの「夕星の歌」、タンホイザーの「ローマ語り」など、歌手の力量を存分に味わえる聴きどころにも枚挙に暇がありません。



2007年に新国立劇場開場10周年記念シーズンの開幕作品として新制作上演したレーマン演出のプロダクションは、幻想と現実を効果的に行き来する美しい舞台で、ワーグナーの世界を堪能できると好評を博した。ワーグナーにふさわしいスケールの壮麗な舞台です。

世界最高峰のヘルデンテノール、グールド待望の新国立劇場再登場。

タイトルロールには世界最高峰のヘルデンテノールとして揺るぎない活躍を見せるステファン・グールドが、得意のタンホイザー役で約5年ぶりに新国立劇場へ登場します。パイロイト音楽祭やウィーン国立歌劇場など著名劇場で活躍するグールドは、新国立劇場にコンスタントに登場し、トリスタンや「指環」四部作、フィデリオなどの名演で絶大な人気を博しています。タンホイザーは近年パイロイトをはじめザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどに立て続けに出演、最も歌い込んでいる役柄です。

エリーザベトにはドラマティックな役柄で欧米の劇場で活躍中のソプラノ、サビーナ・ツヴィラク、ヴェーヌスにリトアニアの若手メゾ、エグレ・シドラウスカイト、ヴォルフラムには幅広く活躍するカナダのバリトン、ダニエル・オクリッチが出演します。日本からも、領主ヘルマンに新国立劇場で大活躍のバス妻屋秀和、騎士たちには鈴木准、青山貴、今尾滋、後藤春馬と実力派歌手が揃います。指揮にフランダース歌劇場音楽監督を務めるなどヨーロッパの歌劇場で活躍し、来日も多い俊英アレホ・ペレスが登場するのも話題です。絶大な信頼を誇る新国立劇場のワーグナー上演を、どうぞご堪能ください。

<ものがたり>

【第1幕】中世のドイツ。騎士タンホイザーは、禁断の地ヴェーヌスベルクで愛欲の女神ヴェーヌスの虜となっていた。やがてこの歓楽の日々にも飽き、引き止めようとする女神の誘惑を振り切って人間世界に戻る。通りかかった巡礼一行の歌声に心を動かされタンホイザーは贖罪を誓う。そこで狩りに向かうかつての仲間に出会い、「エリーザベトのもとにとどまれ」の一言でヴァルトブルク城へ共に帰って行く。

【第2幕】ヴァルトブルク城、歌の殿堂の大広間でタンホイザーはエリーザベトとの再会を喜び、歌合戦に参加することとなる。領主ヘルマンからの歌合戦の課題は「愛の本質」を明らかにすること。かつての同僚ヴォルフラムは愛を清らかな「奇跡の泉」にたとえ、他の騎士たちも精神的な愛を讃える歌を歌う。タンホイザーはこれに反論し、愛の本質は官能の愛であると〈ヴェーヌス賛歌〉を歌い上げたため、ヴェーヌスベルクにいたことが人々に露見してしまう。騎士たちはタンホイザーを殺そうとするが、エリーザベトは「信仰の勇気が、この人にも与えられますように」と願う。このとりなしによって領主ヘルマンは、タンホイザーにローマ法王のもとへ贖罪の巡礼に出よう命じるのだった。

【第3幕】エリーザベトはタンホイザーの救済を祈っているが、ローマからの巡礼の中に彼の姿はない。エリーザベトは自らの命と引き換えにタンホイザーの救済を聖母に願う。そこに現れたタンホイザーは、ローマで自分だけ許しを与えられなかった様子を語る。自暴自棄になったタンホイザーはヴェーヌスベルクへの誘惑に今一度身を任せようとするが、エリーザベトの死によってその魂は救済される。「エリーザベトよ、わがために祈れ」と叫んで息絶えるタンホイザーに、神の恩寵をたたえる合唱が響く。

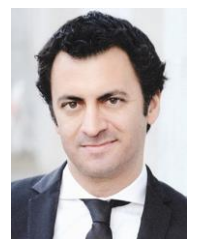


<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】アレホ・ペレス

ブエノスアイレス出身。オペラとコンサートで国際的に活躍する指揮者。2010年からマドリード・テアトロ・レアルの主要指揮者の一人として、『リエンツィ』『ドン・ジョヴァンニ』『ヴェニスに死す』などを指揮。また、リオン歌劇場『ペレアスとメリザンド』『The Stigmatized』『GerMANIA』『From the House of the Dead』、ローマ歌劇場『チェネレントラ』『鼻』『ルル』『炎の天使』などのほか、パリ・オペラ座、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ノルウェー国立オペラ、ポーランド国立歌劇場、モネ劇場などに登場。2019年よりフランダース・オペラ音楽監督に着任、同『ペレアスとメリザンド』『ローエングリン』『ドン・カルロ』『Schmied con Gent』『C(h)oeurs』などの新制作で強い存在感を発揮しており、近年の同劇場の世界的評価へ貢献している。同劇場22/23シーズンは『マハゴニー市の興亡』『トリスタンとイゾルデ』の新制

Alejo PÉREZ

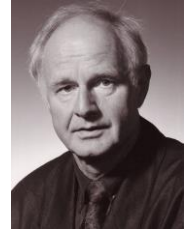


作を指揮する予定。近年はザルツブルク音楽祭にウィーンフィルと『ファウスト』などで成功を収め、コロソ歌劇場(『パルジファル』『ばらの騎士』『ナクソス島のアリアドネ』)、ザクセン州立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラなどで成功を収める。22/23シーズンの主な予定には、新国立劇場へのデビューのほか、ウィーン国立歌劇場とシュトゥットガルト歌劇場の『ウェルテル』、ジュネーヴ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』新制作などがある。東京都交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ソウル・フィル、読売日本交響楽団、ハンブルク・フィルなど世界各地のオーケストラに客演。18年には二期会『魔弾の射手』を指揮した。新国立劇場初登場。

【演出】ハンス＝ペーター・レーマン

Hans-Peter LEHMANN

ドイツ・カッセル生まれ。デトモルトで音楽を、ベルリンで美術史と演劇学を学ぶ。1958年ベルリン州立歌劇場でK.エーベルトの助手を、60年から73年までバイロイト音楽祭でヴィーラント・ワーグナー及びヴォルフガング・ワーグナーの助手を務める。80年より2001年まで、ハノーファー州立歌劇場総監督を務め『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『トスカ』『アイダ』『ヴォツェック』など数多くの作品を手がける。01年よりフリーの演出家として活躍し、世界各地のオペラハウスやフェスティバルで作品を発表している。今までに『ラインの黄金』『ワルキューレ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『魔笛』『仮面舞踏会』などを演出した。新国立劇場では02年『ナクソス島のアリアドネ』、04年『エレクトラ』に続いて、07年『タンホイザー』が3作目となった。



【領主ヘルマン】妻屋秀和(バス)

TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムールなど出演多数。20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演。22/23シーズンは『アイダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレにも出演予定。令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。



【タンホイザー】ステファン・グールド(テノール)

Stephen GOULD

アメリカ・ヴァージニア州生まれ。ウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場をはじめ、パリ、ロンドン、ローマ、パレルモ、ベルリン、ハンブルクなどヨーロッパ各地の主要歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『ローエン格林』『タンホイザー』『ジークフリート』『パルジファル』タイトルロール、『神々の黄昏』ジークフリート、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどをレパートリーとする。21/22シーズンはドレスデン、ベルリン(ドイツ・オペラ)で『タンホイザー』、ミラノ・スカラ座『ナクソス島のアリアドネ』などに出演。22年夏のバイロイト音楽祭では『タンホイザー』『神々の黄昏』『トリスタンとイゾルデ』に出演。本年10月にはテアトロ・レアル『タンホイザー』に出演している。新国立劇場では06年及び18年『フィデリオ』フロレスタン、09年『オテロ』タイトルロール、10～11年『トリスタンとイゾルデ』トリスタンに出演。さらに15年『ラインの黄金』ローゲ、16年『ワルキューレ』ジークムント、17年6月『ジークフリート』タイトルロール、10月『神々の黄昏』ジークフリートと「ニーベルングの指環」全4作品に出演して絶賛を博した。



【ヴォルフラム】ダニエル・オクリッチ(バス・バリトン)

Daniel OKULITCH

カナダ出身。バス・ラーマン演出『ラ・ボエーム』初演のショナールで注目を集める。モーツァルト、特に『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵とフィガロでニューヨーク・シティ・オペラ、ブエノスアイレス・コロソ劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンタフェ・オペラ、パームビーチ・オペラ、バンクーバー・オペラなどに出演を重ねる。現代作品も得意で、マドリッド・テアトロ・レアル、ニューヨーク・シティ・オペラ『ブローックバック・マウンテン』(ウオリネン作曲)イニス、シヤトレ座、ロサンゼルス・オペラ『ザ・フライ』(ハワード・ショア作曲)セス・ブランドル、セントルイス・オペラ『ゴールデン・チケット』(アッシュ作曲)ウィリー、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マーニー』(ミュリー作曲)世界初演のマーク、モントリオール・オペラとフォートワース・オペラで『JFK』(リトル作曲)リンドン・ジョンソン、サンタフェ・オペラ『ドクター・アトミック』グローブス将軍、モントリオール・オペラ『リトゥン・オン・スキン』プロテクターなどに出演した。最近では、シアトル・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、バルセロナ・リセウ大劇場『Lessons in Love and Violence』、ボリショイ劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールに出演。新国立劇場初登場。



【ヴァルター】鈴木 准(テノール)**SUZUKI Jun**

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』『ドン・オッターヴィオ』『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨーニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリユー・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ好評を得た。14年にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演し絶賛される。15年には神奈川県民ホール『金閣寺』柏木に出演。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓、『フィデリオ』ジャッキー、『タンホイザー』ヴァルター、演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ウルリヒ・アイスリンガー、『さまよえるオランダ人』舵手、『魔笛』タミーノに出演。松本隆現代語訳によるCD「冬の旅」「白鳥の歌」をリリース。二期会会員。

**【ピーテロルフ】青山 貴(バリトン)****AOYAMA Takashi**

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期マスタークラス修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第4回マグダ・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト。これまでに二期会『仮面舞踏会』レナート、『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレツォ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、びわ湖ホール『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。新国立劇場では『カルメン』モラレス、『黒船一夜明け』第二の浪人／漁師、『トゥーランドット』官吏、『ホフマン物語』シュレーミル、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、同『ラ・ボエーム』マルチェット、同『蝶々夫人』シャープレス、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』フリッツ・コートナーなどに出演している。二期会会員。

**【エリーザベト】サビーナ・ツヴィラク(ソプラノ)****Sabina CVILAK**

スロヴェニア・マリポール生まれ。2003年ハンブルク州立歌劇場に『トゥーランドット』リユーでデビュー、04/05シーズンにはウィーン国立歌劇場の専属歌手となり多くの作品に出演。その後フリーとなり、トリエステ、ケルン、ワシントン、カーディフ、ロサンゼルス、バレンシア、香港、ベルリン、ボローニャ、マルメ、ヴィースバーデンなどで『ラ・ボエーム』ミミ、『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リユー、『タンホイザー』エリーザベト、『ワルキューレ』ジークリンデ、『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、『売られた花嫁』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『カーチャ・カバノヴァ』『イエヌーファ』タイトルロールほかで出演している。コンサートでも活躍し、モンテカルロ、ヴィースバーデン、ドレスデン、フランクフルト、パリ、ニューヨーク、ロンドン、アムステルダム、イスタンブール、トリノなどで、ブリテン『戦争レクイエム』、R.シュトラウス『四つの最後の歌』、ドヴォルザーク『スターバト・マーテル』、ブラームスの『レクイエム』などに出演している。新国立劇場初登場。

**【ヴェーヌス】エグレ・シドラウスカイト(メゾソプラノ)****Eglė ŠIDLAUSKAITĖ**

リトアニア生まれ。当地の音楽アカデミーで学んだ後、ミラノ・ヴェルディ音楽院に学ぶ。カーディフ国際音楽コンクールに出場の他、多くのコンクールで優勝している。カッセル歌劇場、フライブルク歌劇場などに出演後ヴィリニュス・リトアニア国立歌劇場にて『ドン・カルロ』エボリ公女、『カプレーティとモンテッキ』ロメオ、ラミンタ・シェークシュニテの『マリアの5つの奇跡』マリアなどに出演、『ドン・カルロ』のエボリ公女役ではリトアニアで舞台芸術の最高賞であるリトアニア・ゴールデン・クロスを受賞し、2016年にはリトアニア・オペラ賞のアーティスト・オブ・ザ・イヤーを受賞した。ほかにもラトヴィア国立オペラ(リガ)、エストニア国立オペラ(タリン)、ミラノ・イタリア歌劇団などで『ドン・カルロ』エボリ公女、『カルメン』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナほかを演じている。またドミトリー・ホヴォロストフスキー主演の『リゴレット』『シモン・ボツカネグラ』の録音に参加、後者はグラミー賞の最優秀オペラ録音賞を受賞した。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
リヒャルト・ワーグナー
タンホイザー
Richard WAGNER / Tannhäuser
全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

【公演日程】2023年1月28日(土)14:00/31日(火)14:00/2月4日(土)14:00/8日(水)17:00/11日(土・祝)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2022年11月26日(土)

※予定上演時間：約4時間5分(休憩含む)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

指揮	アレホ・ペレス	領主ヘルマン	妻屋秀和
Conductor	Alejo PÉREZ	Hermann	TSUMAYA Hidekazu
演出	ハンス＝ペーター・レーマン	タンホイザー	ステファン・グールド
Production	Hans-Peter LEHMANN	Tannhäuser	Stephen GOULD
美術・衣裳	オラフ・ツオンベック	ヴォルフラム	ダニエル・オクリッチ
Set and Costume Design	Olaf ZOMBECK	Wolfram von Eschenbach	Daniel OKULITCH
照明	立田雄士	ヴァルター	鈴木 准
Lighting Design	TATSUTA Yuji	Walther von der Vogelweide	SUZUKI Jun
振付	メメット・バルカン	ビーテロルフ	青山 貴
Choreographer	Mehmet BALKAN	Biterolf	AOYAMA Takashi
再演演出	澤田康子	ハインリヒ	今尾 滋
Revival Director	SAWADA Yasuko	Heinrich der Schreiber	IMAO Shigeru
舞台監督	高橋尚史	ラインマル	後藤春馬
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Reinmar von Zweter	GOTO Kazuma
		エリーザベト	サビーナ・ツヴィラク
		Elisabeth	Sabina CVILAK
		ヴェーヌス	エグレ・シドラウスカイト
		Venus	Eglé ŠIDLAUSKAITÉ
		牧童	前川依子
		Ein junger Hirt	MAEKAWA Yoriko
		4人の小姓	和田しほり/込山由貴子/ 花房英里子/長澤美希
		Vier Edelknaben	WADA Shihori, KOMIYAMA Yukiko, HANAFUSA Eriko, NAGASAWA Miki
合唱指揮	三澤洋史		
Chorus Master	MISAWA Hirofumi		
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
バレエ	東京シティ・バレエ団		
Ballet	Tokyo City Ballet		
管弦楽	東京交響楽団		
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/tannhauser/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。*未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【2】



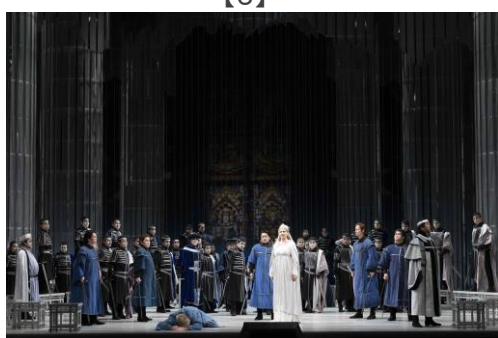
【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】

新国立劇場オペラ『タンホイザー』2019年公演より 撮影:寺司正彦